第６号　広報　みまた

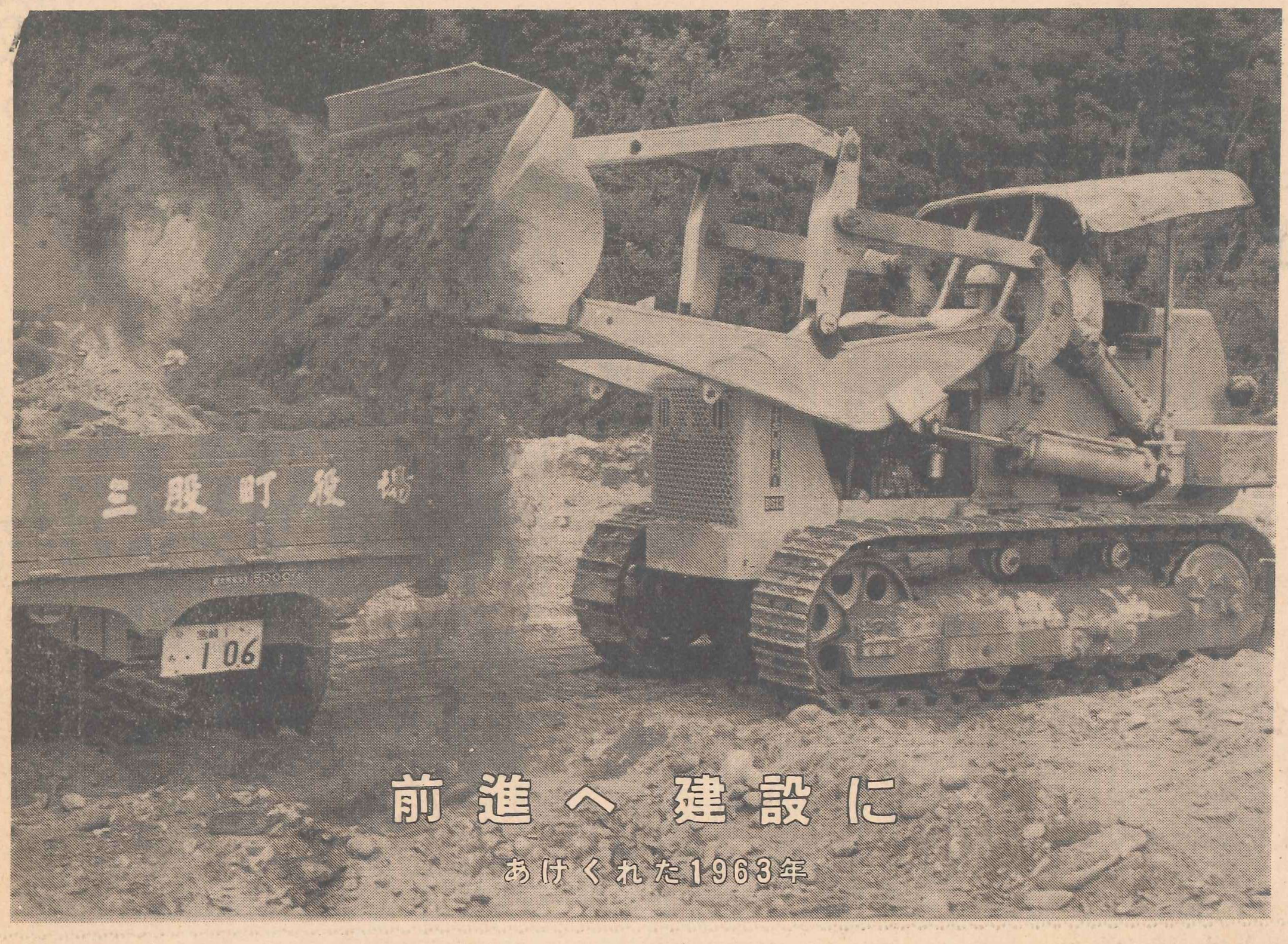
町の人口

11月1日現在

総　数	14,903人
男	7,100人
女	7,803人
世帯数	3,592戸

広報みまた

No. 6
昭和38年
11月1日
発行　三股町
編集　総務課



前進へ建設に

あけくれた1963年

師走

一九六三年もあわただしさの内にはや十二月、「早くこいこいお正月、お正月にはたこあげて…」子供達にとってはこと更に楽しいお正月の足音ももうかすかに聞こえてくるようです。しかし大人にとっては「しわす」と聞いただけでいかにもあわただしい感じがします。あれもこれもと一年のしめくくりと迎春の準備に追われてどこの家庭でも忙しい月です。

又十二月は忘年会など会合には酒はつきものです。ゆっくりと雰囲気を楽しみながらの酒の味は又格別なものがあります。

二十二日は冬至、一年中で最も日の短かい日、すき間風の冷気も愈々身にしみるようになります。

健康には十分気をつけてとくにかぜなどひかないようにしたいものです。

さて我が三股町は大きな羽ばたきと共に土木に建築に或いは又町の運命をかけた農業の近代化事業に町をあげて建設のつち音にあけくれた飛躍の年一九六三年もあとわずかにして暮れんとしております。

来年も又更に飛躍の年でありますように。

蔵元橋完成

上米、中米間を流れる蔵元川に全長七・七米、幅員五米、工事費八二万円で優美な永久橋が完成いたしました。

竣工式は去る十一月九日、関係者、地元部落民の喜びの中に盛大に行なわれました。

この橋の永久化は農業構造改善の一翼として産業経済の発展に貢献するものと大いに期待されております。

蔵元橋渡り初め風景

○こじると便利です。○

事業計画成る

総事業費一億六千万円

農業構造改善事業

町に於いては農業をもっと少ない労力でしかも収入を何倍にもする事が出来るようにその体質や仕組みを変えていこうといういわゆる農業構造改善事業の計画がこの程まとまり愈々実行の段階に入っております。

その総事業費は今後三カ年間に於いて一億六千万円、その内補助事業費八千八百万円、その六割以上に当る五千五百万円を国、県が補助する事になっております。

その他みかん植栽、乳牛導入等の融資事業費七千八百万円となっております。

農家の生活を豊かにする為に国、県が積極的に援助してやろうと言うこんなうまい話はめったにありません。こんなうまい仕事を計画どおり成就させるかどうかは私達農民が是が非でもやりとおすんだという心構えが必要な事は申すまでもありません。

その推進地区としては先ず勝岡、宮村、梶山の三地区を設定し、基幹作物としては需要と供給の上に立って今後もっとも将来性のある酪農とみかんをもっと規模を大きくして更にその生産を合理化してゆこうとする選択的拡大の方向を強く打ち出しております。

では町が計画し実施してゆこうとしている農業構造改善事業とはどんな構想であるかその概略を以下申し述べて見ましょう。

勝岡地区

勝岡地区に於いては今後酪農を基幹として安定した農業経営を確立するためにこれを強く推進する事になっております。

此の地区に於いては現在農家戸数六二二戸、うち酪農家一一三戸で乳牛は二一一頭が飼育されております。

これを改善後においては農家戸数五三二戸、うち酪農家一九三戸、飼育乳牛一、五二五頭を理想的な姿として、この目標を達成する為に左の関連表に示されているような各種の事業が計画されております。

即ち酪農経営の安定には先ず飼料作物の集団栽培、家畜保健衛生の徹底、流通費（経費）の節減及び酪農の伸長を期する為に農作業の省力化、この四つを大きくとりあげてこれを成就する為にそれぞれ細目の事業を実施する事になっております。

特に飼料確保には大農機具利用による省力栽培を確立する為に交換分合や区画整理及び農道の布設など積極的に推進し又集乳作業にも便なるようにその位置なども留意されております。

これは穀物乾燥施設、飼料調整施設或いは又家畜管理所においても同様な留意のもとに計画がなされております。

宮村地区

宮村地区はその気象、地質、地形的においてみかん栽培に最も適した条件をそなえている事がその調査結果において立証されております。

又平坦酪農地としても適した地域が多く、その恵まれた各種の条件を最大限に利用してみかんと酪農を基幹作物として農業構造改善事業を実施する事になっております。

現在農家数二五六戸、うち酪農家数は一〇戸で乳牛一二頭が飼育されているにすぎない状態でありますが、これを酪農家数四七戸で二七七頭にし又みかんにおいては現在三〇戸で九町歩を経営しておりますがこれを六〇戸に増やし一戸当り一町歩植栽へ拡張し六〇町歩の増反計画がなされております。

梶山地区

梶山地域は果樹栽培の好条件を利用して古くからみかんの生産が盛んでその名はつとに内外に知られております。

現在その栽培農家は九〇戸で六六町歩に達しており、改善後の目標としてはみかん栽培農家一一〇戸、その面積一一〇町歩への拡大計画がなされております。

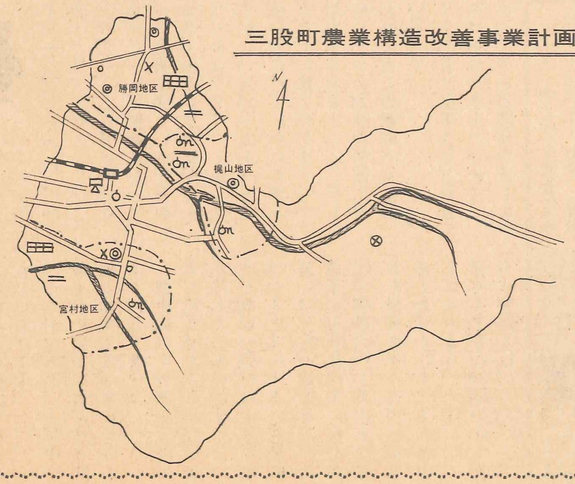
みかん専業八〇戸、みかんプラス米型三〇戸、その他の農家一一〇戸、これがこの地域に最も適した理想的な農家数としてその実現に努力する事になっております。

樹園地の拡大には五町歩の開墾、又品質の向上、薬剤の散布、労力の節減と管理時間の縮減を計る為に定置配管施設、或いは又農道の布設も推進される事になっております。

又共同出荷によって販売を有利にする為に本地域中央部に選果場を設け、選果、ワックス処理を経て一元出荷がもくろまれております。

尚米作については労力の節減の為に共同乾燥場の設置等、又早期水稲の集団栽培も計画されております。

三股町農業構造改善事業計画概要図



凡例	事業種目
◎	籾乾燥施設、飼料調製所
○	集乳所
×	家畜管理所
⊟	区画整理
═	附帯農道
みかん	みかん共同防除施設
⊗	草地造成、放牧施設
⌂	みかん集荷所
□	農業機械、格納庫
△	ブルドーザー

経営構造改善計画、構想関連図表

勝岡地区

- 酪農経営安定
  - 飼料集団栽培
    - 基盤整備
      - 区画整理 — 49.6ヘクタール
      - 交換分合 — 150 〃
      - 土改農道 — 4.422m
      - 農道 — 587.6〃
    - 飼料調整運搬施設
      - 牧草乾燥機 — 乾燥機1セット
      - 1棟30坪
      - 乾草梱包機 — 梱包機1セット
  - 保健の徹底
    - 家畜管理所 — 1棟14坪畜衡器
  - 流通費の節減
    - 乳共同出荷 — 集乳所 — 1棟12坪クーラー
  - 省力作業
    - 大型機械導入 — 機械利用組合
    - 穀物乾燥貯蔵施設 — 穀物乾燥機及び籾すり機1式

宮村地区

- 農家経済の安定
  - 酪農の安定
    - 飼料栽培
      - 基盤整備
        - 区画整理 — 95.2ヘクタール
        - 交換分合 — 150 〃
        - 土改農道 — 1.767m
        - 農道 — 2.380〃
      - 飼料調整貯蔵施設
        - 牧草乾燥機 牧草梱包機 — 1棟30坪
    - 保健の徹底
      - 家畜管理所 — 1棟14坪畜衡器
    - 流通費の節減
      - 乳共同出荷 — 集乳所 — 1棟12坪クーラー
    - 省力作業
      - 大型機械導入 — 機械利用組合
      - 穀物通風乾燥施設 — 穀物乾燥機籾すり機1式
  - みかん経営の安定
    - 規模拡大
      - 樹園地造成 — 山林開墾 — 11.9ヘクタール
    - 生産費の低減
      - 病虫害防除施設 — 定置配管 — 12,000m
      - 共同出荷 — 選果場利用
    - 省力作業
      - 大型農機具導入

梶山地区

- みかん経営の安定
  - 規模拡大
    - 樹園地造成 — 山林開墾 — 4.96ヘクタール
  - 生産費の低減
    - 農道 — 2,700m
    - 病虫害防除施設 — 定置配管 — 1,800m
    - 穀物通風乾燥機 — 穀物乾燥機及び籾すり機一式 — 1棟15坪
  - 省力作業
    - 大農機具導入 — 大農機具利用組合
    - 共同出荷 — 選果場利用

活躍するブルドーザー餅原区画整理事業

農業近代化は土地改良が先決

いま私達の農業は大変な過重労働に反して、収入がなか〳〵思うように上らないと言われております。これは一体、どこに原因があるのだろうか。それはなんと言っても耕地の条件が悪いことが、一番の理由にあげられております。成程私達の周囲を見ても、小さな田畑があっちこっちに散らばっていて、その上、曲りくねった農道が数多く見受けられます。今後農業近代化によって、大型機械をどしどし入れて生産性を高めようとするには、このような土地条件を整備する事が必要です。本町に於いてはこれを農業構造改善事業によって区画整理、交換分合、農道の整備など総事業費三千四百万円をもって、どしどし改善していくことになっております。それでは、町の農業構造改善事業計画による土地基盤整備事業の概要をお知らせしましょう。

一、勝岡地区

(1)餅原畑地区画整理　五二町歩

此の地区の現状は非常に段差の多い所で、農道は少なく区画も大小さまざまで、区画整理は非常に困難な地区として今日まで残されていましたが、これをブルトーザ整地によって農地の区画を少なくとも三反歩以上の区画とし、農道を整備して農道の集団化を図り、今後農業の機械化を推進することになっております。

(2)農地交換分合　一五〇町

勝岡地区一円の農地を交換分合によってその集団化をはかり、農業経営の近代化とその合理化を図ろうとするものです。

(3)田上農道　三、七六一米

田上地区内の水田は明治四二年に行なわれた区画整理地区で、農道はあっても畦畔程度でその利用価値が非常に低いのでこれを拡張整備しようとするものです。

二、宮村地区

(1)小鷹原地区畑地区画整理　九六町歩

此の地区は比較的に段差もなく、広い畑地帯であり、今回はこれを農業構造改善事業として区画整理するもので、餅原と同様に農道を整備し、三反歩以上の区画を実施し、農地の集団化を図る計画であります。

(2)農地の交換分合

宮村地区一円の農地について交換分合を実施し農地の集団化を図って、農業経営の近代化を進めるものであります。

(3)下水流農道　一、七六七米

小鷺巣部落の下水流地区の畑地は段差甚しく区画整理実施が困難な為地区内農道を整備し、農業経営の合理化を図る計画になっております。

三、梶山地区　二、三三二米

(1)高才原農道

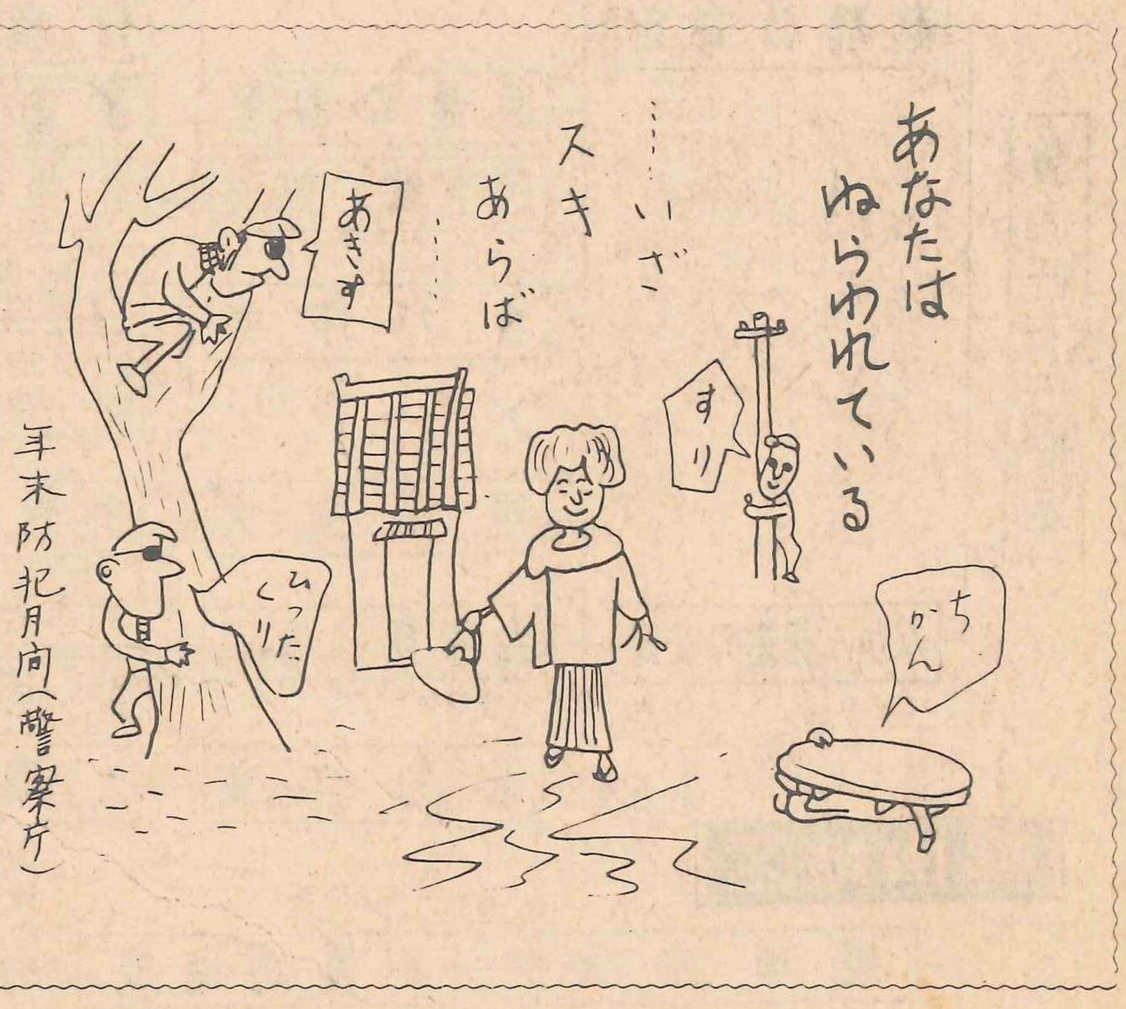
この地区はみかんの適地で今後この地区にその主産地を形成する計画であります。これがための農道整備となっております。

慰霊祭
厳粛裡に終る

秋晴れの天候に恵まれた十一月八日、早馬公園の忠霊塔において七二三柱の戦歿者慰霊祭が遺家族その他、関係者多数参列のもとに、おごそかに行なわれました。

霊前には季節にふさわしく菊の花束で埋もれ、県知事、町長等の弔辞のあと、婦人会による舞踊など賑やかに行なわれ、遺家族の人々を慰めました。

七二三柱の諸霊よ、安らかに……



年末防犯月向（警察庁）

除夜のかね

大みそかの夜のことを、除夜と呼ばれております。一年の除かれる夜という意味だそうです。

いよ〳〵年の終りに近くなった夜の十二時少し前になると、あたりの静寂を破って「ゴーン」と、遠くかすかに鐘の音が聞えて来ます。

「百八の鐘がつかれて……」といわれるが、百八のぼんのうを除くことになぞらえられて除夜の鐘と言い、最後の一つきが、新年になるように打たれます。

古人の句に、

鐘ついてことしへ
おりる男かな

というのがあります。